

平成27年度 徳島県立川島高等学校「学力向上実行プラン」

1 本年度の重点目標

- ①単位制を活かした中高一貫教育を推進するとともに、確かな学力の向上を図る。
- ②個別面談の充実や、朝の学習、家庭学習など自主学習の促進に努める。
- ③言語活動の充実を図り、生徒の活動を重視した授業に転換する。

2 学力向上のための実行プラン

(国語)

年次	学科	現状と課題	本年度の目標	具体的な教員の取組	評価
1	普通	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の習熟度に応じた課題を厳選し、個々の学力の向上に努める。 ・家庭での学習習慣の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい授業を実践し、基礎学力の向上を図る。 ・校外模試の偏差値 50 以上の人数を平均 30 人以上にする。 ・定期考査の欠点者を 0 にする。 ・主体的な学習活動を工夫し、言語活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ノート点検時に、学習方法やノートの取り方について、個別にアドバイスを行う。 ・週末課題で、新たな単元への準備と、既習事項の定着を図る。 ・漢字や文法の小テストを適宜実施する。 ・質問タイムを活用し、個別指導を充実させ、基礎力の補強、応用力の強化に努める。 ・グループ活動を取り入れ、問題解決につながる話し合いの方法や発表の仕方を身につけさせる。 	4 3 2 1
					4 3 2 1
2	普通	<ul style="list-style-type: none"> ・成績上位者と下位者の学力差は一層大きくなっているため、それぞれの学力を伸ばすための課題や小テストの工夫、授業の質の向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的・主体的に学習に取り組む意欲を育成する。 ・校外模試の偏差値 50 以上の人数を平均 30 人以上にする。 ・定期考査の欠点者を 0 にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい授業を実践する。 ・単元ごとの小テストをこめに実施し、既習事項の定着を図る。 ・週末課題の内容を工夫したり、予習復習を徹底させ、学習習慣を身につけさせる。 	4 3 2 1
					4 3 2 1
3	普通	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路の希望に添いながら基礎学力の定着と応用力を育成し、個々の学力の向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外模試の偏差値 50 以上人数を平均 30 人以上にする。 ・定期考査の欠点者を 0 にする。 ・言語活動の充実を図り、自己表現力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のノート作りが自分で考えながらできているか、個別にアドバイスを行う。 ・基礎学力の定着と共に興味関心を広げられるよう週末課題や補習で強化しながら、進路決定後にも誠実に学習に取り組むよう指導する。 ・ディベートやグループディスカッション等、他者の考えを聞きながら、自分の考えを論理的に話す活動を取り入れる。 	4 3 2 1
					4 3 2 1

(地歴・公民)

年次	学科	現状と課題	本年度の目標	具体的な教員の取組	評 価
1	普通	<ul style="list-style-type: none"> 現代の社会に対する興味・関心はあるが、問題意識としてとらえていくことができていないのが現状である。自己の問題としてとらえられるような身近なテーマを取り上げ、知識も大切であるが、生徒自身に現代社会が抱える課題について主体的に考案させる授業構成が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査の欠点者を0にする。 課題の提出を100%にする。 单元ごとに新聞等を利用し、現代社会への興味・関心を高める。 言語活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習方法についての導入教育を行う。 板書ノート、「現代社会ノート」(ワーク)の定期的な提出とチェックを丁寧に指導する。 新聞等を利用し、現代社会への関心を高め、主体的・多角的に考える授業を工夫する。 单元終了時に小テストを実施し、基礎・基本の定着を図る。 教科書の基本的用語を理解しながら読解ができるよう指導する。 現代社会の身近なテーマについて自由文を書かせたり説明させたりすることにより言語活動の充実を図る。 	4 3 2 1
					4 3 2 1
2	普通	<ul style="list-style-type: none"> 2単位という少ない時間数の中で基本的事項を習得させるのは難しい現状であるが、諸資料に興味・関心を持ち、少しでも予習・授業・復習のサイクルができるように指導の工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査の欠点者を0にする。 課題の提出を100%にする。 「なぜ？」と多く問いかけて、深く考察させ歴史的思考力を養う。 言語活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を中心に单元ごとの小テストを実施し、既習事項のより一層の定着を図る。 新聞・画像資料・音声資料を利用しわかりやすい授業を実施する。 定期考査ごとにノートの提出・確認を徹底させる。 印象に残った歴史的事項や人物についてノートに簡単に記述させたり説明させたりすることによって、言語活動の充実を図る。 	4 3 2 1
					4 3 2 1
3	普通	<ul style="list-style-type: none"> 入試や就職試験等、生徒の進路に応じた柔軟な授業の構築が必要である。特に、時事問題に関心を持たせ、小論文や面接対策となるような授業や指導を取り入れる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査の欠点者を0、課題提出を100%にする。 昨年度より校外模試平均点を上げる。 言語活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路に応じた適切な課題を与え、個別指導を充実させる。 模試対策を充実させる。模試対策確認ノートを作らせる。 「倫理」「政治・経済」において現代社会における様々な課題について自由に書かせたり説明させたりすることにより言語活動の充実を図る。 	4 3 2 1
					4 3 2 1

(数学)

年次	学科	現状と課題	本年度の目標	具体的な教員の取組	評 価
1	普通	<ul style="list-style-type: none"> 校外模試では、小問集合や大問の(1)などができていない生徒が多いので、もう一度基本の習熟を図るとともに応用力の育成も目指したい。 毎回固定された者の課題が提出できていないため、粘り強く期限内に提出できるよう指導していく。 継続的に課題に取り組み、家庭での学習習慣の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期テストの平均点を 50 点以上欠点者を 0 にする。 校外模試の偏差値 50 以上の人数を平均 30 人以上にする。 課題の提出を 100%にする。 家庭学習時間 1 時間以上にする。 言語活動の充実を図る活動を毎時間 1 回以上取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 週末課題で既習事項を復習させ、小テストを行うことで基礎・基本を定着させる。小テストの成績が目標に達していない生徒には、再テストを行うことで基礎学力の定着を図る。 サタディサポートを利用して、模試の過去問題を解かせることにより、応用力を身につけさせる。 生徒にとって負担加重にならないような分量の課題を与える。 期限内に提出できなかった者や、内容が不十分であった者に対しては、個別にその都度、注意を促し、課題に取り組む意識や家庭学習の習慣をつけさせる。 問題を解くときに生徒同士で相談したり、解答をみんなの前で発表する機会を作り、言語活動の充実を図る。 	4 3 2 1
					4 3 2 1
2	普通	<ul style="list-style-type: none"> 問題演習が不足していたので、すべての生徒にもう 1 ランク上の学力を身につけさせるため、課題や補習等で補強を心がけたい。 学力の基礎基本の定着を確実にするため、生徒の習熟度に応じた週末課題の内容の吟味に心がける。 継続的に課題に取り組み、家庭での学習習慣の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期テストの平均点を 50 点以上、欠点者を 0 にする。 校外模試の偏差値 50 以上の人数を平均 30 人以上にする。 課題の提出を 100%にする。 家庭学習時間 1 時間以上にする。 言語活動の充実を図る活動を毎時間 1 回以上取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 週末課題で、既習事項を復習させ、小テストを行うことで基礎・基本を定着させる。小テストの成績が目標に達していない生徒には、再テストを行うことで基礎学力の定着を図る。 サタディサポートを利用して、模試の過去問を解かせることにより、応用力を身につけさせる。 生徒にとって負担加重にならないような分量の課題を与える。 期限内に提出できなかった者や、内容が不十分であった者に対しては、個別にその都度、注意を促し、課題に取り組む意識や家庭学習の習慣をつけさせる。 問題を解くときに生徒同士で相談したり、解答をみんなの前で発表する機会を作り、言語活動の充実を図る。 	4 3 2 1
					4 3 2 1
3	普通	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路希望に添った教科指導に心がけたが、より効率的な個人指導と全体指導の実施方法について吟味していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 校外模試（マーク）の偏差値 50 以上の人数を平均 30 人以上にする。 課題の提出を 100%にする。 言語活動の充実を図る活動を毎時間 1 回以上取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 補習やサタディサポートを利用して、問題演習に取り組み、応用力を身につけさせる。模試の結果を分析し、課題の克服に向けて授業の工夫・改善を図る。 生徒の進路希望実現のための適切な課題を与える。期限内に提出できなかった者や、内容が不十分であった者に対しては、個別にその都度、注意を促し、課題に取り組む意識や家庭学習の習慣をつけさせる。 問題を解くときに生徒同士で相談したり、解答をみんなの前で発表する機会を作り、言語活動の充実を図る。 	4 3 2 1
					4 3 2 1

(理科)

年次	学科	現状と課題	本年度の目標	具体的な教員の取組	評 価
1	普通	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートでは、興味・関心に関する評価の平均が 2.9、内容理解度に関する評価の平均は 2.7 で、両方とも昨年度と同じであった。 理科を好きにさせる工夫等さらに授業改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察・実験などの充実により興味・関心を高める。 授業に真剣に取り組む姿勢を育て基礎学力の向上を図る。 定期考査の欠点者を 0 にする。 観察・実験などを行い結果を考察しレポートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習方法についての導入教育を充実させる。 観察・実験を単元毎に 1 回以上行う。 単元終了時に小テストを実施し基礎学力の定着を図る。 適切な課題を与える。 質問タイムを活用し、個別指導を充実させる。 課題の提出を 90 % 以上にする。 各講座で年間 30 回以上質問をさせる。 	4 3 2 1
					4 3 2 1
2	普通	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートでは、興味・関心に関する評価の平均が 3.2 であり昨年度より 0.1 低下した。内容理解度に関する評価の平均は 3.1 で昨年度と同じであった。 理科を好きにさせる工夫等さらに授業改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察・実験などの充実により科学への興味・関心を高める。 授業に真剣に取り組む姿勢を育て基礎学力の向上を図る。 定期考査の欠点者を 0 にする。 わかりやすい授業の実践に努める。 観察・実験などを行い結果を考察しレポートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習方法についての導入教育を充実させる。 観察・実験を単元毎に 1 回以上行う。 単元終了時に小テストを実施し基礎学力の定着を図る。 適切な課題を与える。 質問タイムを活用し、個別指導を充実させる。 課題の提出を 90 % 以上にする。 各講座で年間 30 回以上質問をさせる。 	4 3 2 1
					4 3 2 1
3	普通	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートでは、興味・関心に関する評価の平均が 3.5 で昨年度と同じであった。内容理解度に関する評価の平均は 3.5 で昨年度より 0.1 低下した。 興味・関心に関する生徒の評価は高いが、受験に必要なとしない生徒の興味・関心を高める工夫を行うことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業に真剣に取り組む姿勢を育て実践的な学力を身につけさせる。 定期考査の欠点者を 0 にする。 観察・実験などを行い結果を考察しレポートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎演習、実践演習の解法を工夫する。 個別、少人数指導を充実させる。 適切な課題を与える。 質問タイムを活用し、個別指導を充実させる。 課題の提出を 90 % 以上にする。 各講座で年間 30 回以上質問をさせる。 演習問題を解く時間を昨年比 10 % 増加させる。 	4 3 2 1
					4 3 2 1

(英語)

年次	学科	現状と課題	本年度の目標	具体的な教員の取組	評 価
1	普通	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な語彙や文法事項の定着を図る。 コミュニケーションを重視した授業展開をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の徹底とコミュニケーション能力の向上を図り英検3級以上の取得者を40名以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎週英単語テストを行う。 コミュニケーション活動を各レッスンごとに少なくとも1つは取り入れて4技能を高める工夫をする。 インタビューテストを実施する。 英検対策補習を実施する。 	4 3 2 1
					4 3 2 1
2	普通	<ul style="list-style-type: none"> 基本を重視したコミュニケーションに必要な学習活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 題材に関心を持たせ、基本的なコミュニケーション能力を養い、英検準2級以上の取得者を25名以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎週英単語テストを行う。 幅広い分野に関心を持たせ、コミュニケーションに必要な英語表現や読解の学習を基本から徹底し、自己表現の為のペア・ワークやグループワークを行う。 英検対策補習を実施する。 	4 3 2 1
					4 3 2 1
3	普通	<ul style="list-style-type: none"> 実践的なコミュニケーションに必要な学習活動を行い、生徒の進路実現のための実践力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現に向けた実践力を養うため、英検準2級以上の取得者を25名以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎週単語テストを行う。 実践的コミュニケーションを意識し、場面や状況に応じて英語を使ったスムーズなやりとりができるようにする。 英検対策や生徒の進路に合わせた個別指導を充実させる。 	4 3 2 1
					4 3 2 1

3 全体評価

4 学力向上検討委員会

	職名・校務等担当名	氏 名
管 理 職	校 長	町口 雅治
	教 頭	山村 啓治
学力向上推進員	教 頭	桂 啓人
委 員	指導教諭	森 万里子
〃	教 諭	多田 光広
〃	教 諭	新開 文子
〃	教 諭	大久保 道弘
〃	教 諭	美崎 毅
〃	教 諭	志磨 正師
〃	教 諭	林 英樹
〃	教 諭	尼寺 清人

